

特集「シームレスコンピューティングとその応用技術」の編集にあたって

柴田 義孝†

政府の2010年までに目指す「u-Japan 構想」実現化に向けて、光ファイバ、ADSLなどの有線ブロードバンドネットワークに加え、セルラー通信、無線LAN、Bluetooth、ZigBee等の無線ネットワークの普及により有線と無線とをシームレスに統合する基盤整備が確立しつつあります。また、携帯端末、情報家電の普及によりエンドユーザがネットワークにアクセスする利用形態も多様化しており、複数の異なるネットワークが利用できる環境において、資源の状況に応じて最適な通信経路を自動的に切り替える機能や、動画配信などのサービスをデバイス間でシームレスに受け渡すシームレスコンピューティング技術が注目されており、シームレス通信、Webサービス、サービス合成、P2P等の技術やこれらに基いた新しいアプリケーションも期待されております。

シームレスコンピューティング技術分野の研究は国内外の学会において積極的に議論されており、IEEE主催の分散コンピューティングに関する国際会議ICDCS(The International Conference on Distributed Computing Systems)は2005年に過去最高の投稿論文数を記録するなど活況を呈しています。また、アジアを中心としたネットワークおよびマルチメディア研究者による国際会議であるIEEE AINA(The International Conference on Advanced Information Networking and Applications)が2006年4月に開催され、500編を超える論文が投稿され、採録された120件の中には日本からも数多くの発表されました。国内においては、『マルチメディア通信と分散処理(DPS)研究会』などの研究報告会およびワークショップ、DICOMOシンポジウム等で関連する研究の報告が多数あり、精力的に議論されています。

このような背景から、『マルチメディア通信と分散処理(DPS)研究会』が中心となり、シームレスコンピューティング技術分野とそのネットワーク・アプリケーション技術、そして新しいマルチメディア処理や分散処理に関する論文誌特集号を企画いたし論文募集いたしました。

本特集号には49編の投稿数があり、審査の過程で

1編の取り下げがありましたが、最終的に24編の優秀な論文が採録されました。採択率は49%でありました。採録された論文のテーマとしては、ネットワークプロトコル2編、分散処理1編、無線モバイルネットワーク6編、ネットワーク品質制御2編、データベースシステム3編、ミドルウェア4編、ネットワークセキュリティ4編、学習支援1編、組み込みシステム1編となり、ネットワークプロトコル技術、モバイルネットワークやネットワークセキュリティから応用技術へと多岐にわたり、本特集号での主題であるシームレスコンピューティングとその応用技術分野の幅広いテーマに関する優秀な論文を掲載できたと考えます。本特集が今後のこの分野の発展に多少なりとも寄与できれば幸いです。

最後に本特集号をゲストエディタ制において企画する機会をいただいた論文編集委員会と、迅速な査読に協力いただいた査読者の各位に感謝申し上げます。特に、幹事として最初から最後まで多くの作業の取りまとめをいただいた奈良先端科学技術大学院大学の安本慶一先生および学会事務局に深謝いたします。

「シームレスコンピューティングとその応用技術」
特集編集委員会

- 編集長(ゲストエディタ)
柴田義孝(岩手県立大)

- 編集委員[50音順]

明石 修(NTT), 渥美幸雄(専修大), 勝本道哲(情報通信研究機構), 菊池浩明(東海大), 木原民雄(NTT), 串田高幸(日本アイ・ビー・エム), 齋藤正史(三菱電機), 斎藤裕樹(東京電機大), 櫻井紀彦(NTT), 佐藤文明(東邦大), 重野寛(慶應義塾大), 菅沼拓夫(東北大), 関根 徹(日本TNS), 滝沢 誠(東京電機大), 寺西裕一(大阪大), 西山 智(KDDI研究所), 原 英樹(千葉工業大), 東野輝夫(大阪大), 藤巻貴宏(慶應義塾大), 三宅基治(NTTドコモ), 安本慶一(奈良先端大)

† 岩手県立大学